

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100508		
法人名	株式会社 SHINEI		
事業所名	なでしこの家		
所在地	三重県員弁郡東員町穴太字大谷2578-4		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町提出日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472100508&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 1 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年にも記入させていただきましたが、四季折々の行事を考え、クリスマス会や夏祭り等では飾り付けを家人さんと一緒に作りながら皆で協力して楽しい行事を作り上げている。又、一人一人の家人さんのお誕生日に担当職員をつけ、年に一度のお誕生日を思い出深く過ごしていただけるよう、時にはご家族の方にも協力を得たりし工夫をしている。日常生活のケアにおいても家人さんの意思、自己決定を尊重し、家人さんが伸び伸びと楽しく過ごせる生活を大切にしている。又、家人さんだけではなく、職員も家人さんとの関わりの時間を大切にし時を共有し共に笑顔で過ごせる日々を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念を大切にし、日々ケアの中で「アンダーマイン(ゆっくり傷つけ、害する)」をしていないのか等、常に家人さん(利用者)の立場にたって支援している。また、職員の自己評価では事業所独自の表を作成し、毎年項目内容をかえて行う等、ケアの向上に職員全員で努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」を職員一同大切に、日常生活において家人さんの意思を尊重し、不安要素なく笑顔で平穩に過ごしていただけるようなケアを大切にしている。	玄関や事務所に理念が掲げている。職員はミーティングの時に理念について話し合い、「アンダーマイン(ゆっくり傷つけ、害する)」をしていないケアに取り組む等、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住居が少ない場所で、なかなか地域の方と関わる機会が少ないが、町主催の劇を観賞しに行ったり、ビンや缶等を町運営の収集場に持っていったりしている。	七和幼稚園児との交流や町主催の演劇鑑賞、空き缶収集場への持ち込みなどの際に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高校の実習の受け入れ等を行い、外部の方にも認知症ケアについて知っていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は運営推進会議を開催することができなかった。今後、日々の認知症ケアをより良くしていく為にも、半年に1回の頻度で運営推進会議の開催を大切に、様々な方の意見を聞けるようにしていきたい。	今年度は開催がなかった。	家族会を年5回開催している事や、季節の行事も開催しているのでその時を利用するなど工夫して、運営推進会議の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設の居宅介護支援事業所と通所介護をしている事もあり、日々、市町村と関わる機会は多いと思う。又、グループホーム発行の家族宛てのお便りを役所に毎月届けている。	認知症キャラバンメイトの研修講師やヘルパー養成講習の講師など、町からの依頼を受け入れる等、協力関係はできている。事業所発行の家族向けのお便り通信を、町の担当者に届けて事業所の取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が日頃から日常のケアについて振り返られるよう、月1回ずつ開いているミーティングやケース会議で時折、勉強会等をしている。又、マニュアルも閲覧しやすいよう事務所の棚に保管している。	現在夜間のみ、危険防止として4点柵をしている利用者が1名いるが、家族より許可はもらっている。ヒヤリハットが出た時など関連項目があれば身体拘束について勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6の項目同様、ミーティングやケース会議で勉強会等を開き、家人さんの意思の尊重の大切さを学び実践している。又、マニュアルも閲覧しやすいよう事務所の棚に保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を使っている家人さんは居ないが、以前までに2名いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接やホーム見学を行いながら十分な説明を行い、入居予定者や家族が理解していただいた上で契約をしている。又、解約に関しても入居者や家族に相談し納得した上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満等に日頃から全職員耳を傾け、その都度、お屋の申し送りやミーティング等で話し合い早急に対応できるようにしている。又、家族の要望や意見に関しては来所時や行事の際に話をさせていただいたり、介護計画書更新前に話をさせていただいている。	家族会を年5回開催している。その時に話を聞くようにしている。最近では家族から年末の大掃除を一緒に行う事の提案があり、実施した。全員で行いきれいになって、良い正月を迎えることができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個々の意見を大切にしていけるよう機会を設けていくと共に、他の職員の意見も聞けるようミーティング等を活用し話し合いを行っている。	年1回自己評価があり、内容が毎年変化しており、その中で要望や提案を書く欄がある。又、管理者との個別面談もあり、意見や提案を出し、反映することが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に年1回7月に自己評価を行い、4月には面談をし契約の更新を行っている。又、昨年12月から奨励賞を行い、施設長からの評価や職員からの評価によって日々のケアのモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修に参加できる機会を作っている。又、ミーティング等で勉強会を定期的に開催し、職員のステップアップとなるような教育を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの相互訪問や研修会を行い、交流する機会を作り、様々な意見が取り入れられる機会を設け、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談等を行い、本人が困っていることや不安なこと等を聞く機会を設け、受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してから1カ月以内は頻繁に家人さんの様子を伝えていけるよう努め、家族からの要望等も聞いていけるような場を設け、それ以後も家族の方が話しやすい環境を構築していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の方の状況を把握し、今必要とされる支援を考え、ホーム外の社会(地域)資源も活用したサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外にある畑で野菜やイチゴを家人さんと一緒に育て収穫したり、週1回のスーパーへの買い物へ出掛けたり、洗濯物をたたんだり、家人さんと一緒に居る時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に本人の生活歴や知る限りの本人の思い等、情報を収集しつつ、家族の意向も踏まえながら本人が住みよい環境が作れるように家族と共に本人を支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所・地域に、職員と一緒に外出したりして関係継続に努めていくと共に、ホームへ来所して下さる知人の方との時間をゆっくりと取っていただけるようにしている。	誕生日に実家まで職員と行き、近所をみたりして昔を思い出してもらい、関係が途切れないよう支援している。友人の訪問もあり大切にして、継続をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席配置を決めている。又、職員が関係作りの仲立ちとなれるよう働き掛け、レクリエーションも皆で楽しく参加できるよう考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方にも引き続き関係を断ち切らないよう何かあれば支援することを家族の方に伝えている。又、退所後も家族の方に連絡を取ったり、面会に行ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家人さんの意思や要望を尊重していけるよう、日頃から家人さんとの関わりを大切にし、耳を傾けていけるよう努めている。	「その人を知る」シートに気持ちの項目があり、日常の会話や行動から思いを把握して記入し、全員で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に作成するフェイスシート等を参考にし、本人の馴染みの暮らし方の把握に努めている。又、フェイスシート等だけでなく面会時に家族にも話を伺って少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌等の記録に職員皆が日々の様子(発言や行動)を把握していけるよう記入している。又、転倒・特変・不眠等の家人さんについては口頭で伝えると共にメモを残し、皆が目にする業務日誌に挟むようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書更新前に担当職員が「その人を知る」というシートに現在のADLを記入し、それを基にケース会議で他の職員の意見も聞けるようにしている。又、家族の方にも更新前に意向を伺える機会を設けている。	担当制で「その人を知る」シートにADLなど詳細に記入、見直すとともに、日誌をもとに検討会議を行い、家族意見も反映して計画書を作成する。日誌には計画書の短期目標を毎日かかげ、再確認を行い支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が家人さんの個別日誌(介護計画書の項目を反映している)を記入し、申し送り等で共有しながら日々のケアにあたっている。又、4日前までの個別日誌が閲覧しやすいように別にクリアファイルで保管している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、家人さんの状況の変化や要望に沿えるように、その都度、サービス内容の変更を行っている。又、変化や問題点が見られたら日々の申し送りははじめミーティング等を活用し、より良い方法を考えていけるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	劇や音楽等、地域のボランティアの方が定期的に訪問してくれている。昨年は地域の幼稚園児が遊びに来てくれ家人さんと楽しくお菓子作りをした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医での受診内容(方向性)を明確にしていけるよう努めている。	利用者の3分の1はかかりつけ医で、他の利用者は協力医への受診である。通院介助を行い医師との連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が他の事業所におり、体調不良等が見られれば直ぐに連絡を出来ている。又、当ホームにも非常勤として看護業務ができる職員も居る為、共に健康状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家人さんが入院した際は3日に一度は面会に伺い状況の把握を努めると共に、主治医や看護師とコミュニケーションを取り病院と連絡しつつ、今後のことを相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族と重度化や終末ケア(看取り)について話し合いを行っている。実際に重度化、終末ケアに直面した際は、家族、主治医を含め本人・家族の意向を尊重した今後の方針を話し合い検討している。	家族、医師、職員の連携の支援のもと、今年度は一人の看取りを行った。職員の不安を少しでも軽くするために、看取りに関するケア内容を時間単位で作成し、職員に周知している。最終は「きれいな体で迎えていただく」をモットーにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会等を開いて緊急時の対応等について話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回避難訓練を行い、いざという時に備えて、家人さん、職員共に避難できるよう職員は方法を把握するようにしている。	3、10月に避難訓練を行っており、夜間想定訓練も実施している。連絡網も作成し、全員が避難方法を身につける努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮というマニュアルを作成し、家人さん一人一人を尊重し接している。又、職員同士で各々の家人さんとの接し方を気に掛け、その都度、指摘し合えるようにしている。	管理者は日々のケアで「アンダーマイン」をしてしまっていないかを話し、共有し実践につなげている。職員の対応は丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から家人さんとのコミュニケーションを大切にしながら思いや訴えが表現しやすい環境作りに努めている。又、入浴に関しても家人さん同士が話し合い順番を決められるよう職員が仲立ちになり支援している。(一部の家人さんで実施中)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるも家人さんのその日の様子(体調や表情等)に十分配慮し、その方に適した生活(ペース等)を過ごしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみに気をつけ、乱れていれば直している。又、月1回美容院の方が訪問して下さり、家人さんの希望に則した髪型にいただいている。又、お誕生日や夏祭り等では職員でお化粧をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	レクの1つとして家人さんとお菓子作りをしたり、毎週日曜日にはニコニコ会食という職員と家人さんで一緒にオリジナルメニューを考え、家人さんが食べたい物を取り入れられるようにしている。又、日頃から盛付けや下膳・配膳をしていただけるよう働きかけている。	食材は委託業者が納入し、事業所にて調理、日曜日は皆でメニューを考え一緒に作っている。出来る人が職員とともにお箸やお茶を並べたり、下膳をしている。106歳の利用者には、体調にあわせ栄養に配慮した、1日2食の食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量のチェック・水分量のチェックを行っている。特に食事量や水分量を気に掛けている。いかなければならない家人さんに関しては、別紙を作り職員がより意識していけるようにしている。又、リーダーが食事量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをきちんと促し、口腔内の清潔を保てるようにしている。介助が必要な家人さんについては、職員が見守り付き添って介助等にあたっている。又、口の周りの汚れにも十分気を配り、温かいおしぼりで拭いていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な家人さんに関しては、トイレチェック表という用紙があるのでそれを基に最終排泄を見て、羞恥心に気をつけ声掛けをし、トイレでの自然排泄ができるよう家人さん各々の排泄パターンにて応じて誘導を行っている。	排泄の自立が継続出来るよう、リハビリパンツ使用の利用者もトイレでの排泄を支援している。羞恥心や不安を軽減するための配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の家人さんによって漢方のセンナ茶を調整し飲用していただいたり、主治医と相談しながら内服調整も行い、排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~4日に1回のペースで入浴していただいている。一部の家人さんだけしか実施できていないが、家人さん同士で話し合いをし順番を決めていただけるような工夫をしている。又、直ぐに入りたいと希望があれば応じれるようにしている。	週2~3回の入浴である。入浴希望に沿った支援をするようにしている。入浴する順番を自分達で決め入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さんの各々の状況(夜間不眠・下肢の浮腫・体調不良等)に考慮しながら休息していただけるよう心掛けている。又、家人さんが「休みたい」と希望された際も休息していただくようにしている。休息時は居室環境に気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助はリーダーが行っている。服薬の変更や重要な薬等については全職員が把握できるよう申し送りノートに赤字で記入し口頭での申し送りに行っている。特にリーダーは服薬関係をきちんと理解していけるようリーダー帳を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家人さんが主体になり、食器洗いや玄関掃除、猫の餌やり、花の水やり等、各々が役割を見出して活気のある生活を送っていただけるよう働きかけている。又、気候の良い日は中庭に出てシャボン玉等をし日頃から気分転換を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表という別紙があり、各々の家人さんがいつ外出したかを一覧できるようにしている。日々の外出においては家人さんの行きたい場所を伺ったり、喫茶店やニコニコ会食の買い出しに行ったりしている。又、季節によってお花見や初詣にも出掛けている。	個々に利用者の「お出かけ記録」を作り、その人にあった外出を支援している。喫茶店、買い物などに行ったり、花見や初詣などで遠出も楽しんで出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いに関しては事務所の個人BOX預かりとなっている。買い物の際に家人さんに支払っていただいたり、家人さんから希望があれば個人BOXからお出して一緒に買い物に行ったり柔軟に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人さんが希望された際、電話をつなげたり、職員から家族の方に連絡したりすることもある。又、家人さん宛ての手紙や年賀状は直接家人さんにお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の天窓から日差しが差し込んだり、ホールの窓も大きい為、外の風景が見やすいようになっており季節感が感じられる。又、季節に応じて適した温度や湿度で過ごしていただけるよう加湿器や冷暖房器具をきちんと使用している。	2ユニットが同一の居間兼食堂にて過ごしている。天井は高く音、光、色、広さなど充分配慮している。冬の日差しを受け入れ暖かい空間でテレビをみたり、職員に新聞を読んでもらって談笑するなど過ごしやすくしてある。長い廊下の壁には行事写真などが貼ってあったりして、日常の様子がよく解る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にソファやイスを設置しており、家人さん同士でお話しゆっくり過ごせる環境作りをしている。又、居室で休んでいただくこともできるよう働き掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人さんの使い慣れた物や思い出の品、大切な物(写真やお仏壇等)の持ち込みが可能であり、設置も家人さんにとって使いやすい場所に設置していただけるよう意向に沿った環境を作るようにしている。	ベット、クローゼット、エアコン、洗面台が設置されている。仏壇や整理タンスなど思い思いのものが置かれ、居心地の良い居室になっている。どの居室も整理整頓がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家人さんが安心かつ安全に過ごせるよう、居室空間は手すりの設置やベッドの位置・高さ等を家人さん各々の状況に合わせて考え、タンスにも何処に何が入っているか分かるよう記入をし自立した生活が送れる環境を大切にしている。		